

ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します!



第5号

平成27年8月発行

清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部環境生活政策課
地域コミュニティ室
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市藪田南2-1-1(県庁6階)
電話 058-272-8199



⑨ 大垣市青野ふるさと福祉村

◆所在地：〒503-2227 大垣市青野町224 ◆代表者：藤井 武士 ◆青野地区：人口691人 202世帯(平成27年3月31日現在)

地区の概要

青野町は、大垣市郊外、最西端の農村地帯にある高齢化率約25%、202世帯、人口691人の地区。公共交通機関はなく、地域にあった唯一の雑貨屋も閉店した。大きな商業施設もなく、高齢者の多くは農作業などをして過ごしていることが実情であった。

平成18年4月に大垣市社会福祉協議会が町内の空き民家を賃借し「福祉の館デイサービス青野」を始めた。その隣接する空きスペースを活用し、平成18年5月に自治会が中心となって「青野ふるさと福祉村」を立ち上げ、10月には、地域の方々が気軽に集えるスペースとして「ひゃくえん喫茶・みのる」を開設した。子育てサロンや三世代ふれあい事業等を通して、いつまでも生き生きと暮らし続けることのできる地域づくりのため活動を行っている。

主な特色

●「ひゃくえん喫茶『みのる』」の運営

高齢者を中心として地域の方々がお茶等を飲みながらお話をし交流を図っている。1日の来客数は50人ほどで近隣の町内からの利用者も増えている。最近喫茶で見かけない人が体調が悪いとか入院されたなどの情報が把握でき、地域での見守り活動につながっている。

店員としてボランティアを募集したところ自治会員総数の約1割にあたる80人の応募があり、毎回4~5人が楽しく対応している。会場は趣味の作品展示場ともなり、季節に応じた行事や研修会も行われている。ボランティアとしてお世話をされる方もここに訪れる方も楽しそうな生き生きとした表情が印象的。

開設日には、隣接するデイサービス利用者も訪れ、地域住民との交流が和やかに行われている。毎年3月末にボランティア同士の交流会、反省会を開催し運営の向上に努めている。



ひゃくえん喫茶「みのる」の様子

●「書道教室」「青野いけばな子ども教室」「三世代ふれあい事業」の開催

学童を中心に行儀見習いを兼ねて地域のボランティア講師が書道やいけばなを教えている。

子どもたちにとって祖父母世代にあたる方々から教えてもらうことで、三世代の交流が深まりお互いに地域の人と親しみを持つ場ともなっている。

また、自治会の役員、会員が中心となって、夏祭り、郷土の偉人を偲ぶ会、親子で障子張り、クリーン活動等を行い地域の絆を深めている。



「見守りネットワーク会議」の様子

●「災害時における要支援者のマップづくり」と「あんしん見守りネットワーク」事業の展開

個人情報に配慮しながら、災害時における要支援者(障がい者、高齢者世帯、ひとり暮らし高齢者等)のマップづくりを行い、自治会役員・民生児童委員・福祉推進委員が万が一の場合に備えている。

3か月に1回「見守りネットワーク会議」を開催し、見守り対象者の状況把握を行っている。家の中で日中よく過ごしている場所や就寝場所等も差し支えない程度で記録している場合もある。

ポイント

住み慣れたふるさとで、地域の皆が助け合い・支え合い・安心して暮らしていきたいという住民の思いを大切に地域福祉活動に取り組んでいる。

小学校区よりも「お互い顔が見え、名前が分かり合えること」を基本とした地域福祉を推進するための理想的な活動範囲として青野地区は、きめ細やかな地域福祉活動に取り組んでいる。地域の住民が気楽に集まって交流できる「ひゃくえん喫茶みのる」や三世代交流事業、あんしん見守りネットワーク事業等により、いつまでも生き生きと暮らし続けることのできる地域を目指している。

今後の展望

元気な高齢者が地域を支え、それが健康増進になり地域の介護予防につながるような活動を展開していきたい。市社協・行政等と連携して、空き家を地域の活動拠点として活用していきたい。